

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科農業土木プログラム  
平成18年度第2回外部委員会記録(案)

日時：平成19年3月24日(土)15:00~17:00

場所：農学生命科学部445室

出席者：[外部委員] 山形, 笹森, 田中, 砂沢, 櫻田(隆), 桜田(清)

[プログラム教官] 工藤, 佐々木, 泉, 角野, 加藤, 谷口, 高橋(照), 藤崎

進行：工藤 記録：藤崎

前回の記録の確認

資料の通り承認された。

議題

議事に先立ち、資料1に基づき、中間審査を申請した旨、説明があった。

続いて、資料2が中間審査へ向けた対応の一覧表であり、このうち判定欄で【C】、【W】とされている項目が審査対象で、資料3と資料4が項目別にその内容を文章で表現したものである旨、説明があった。

(1) 教育目標評価委員会

基準1(2)に関して、資源や伝統を見直し、外部からの要望を確認するため、2006年10月に資料5の外部アンケートが行われたと説明があった。

その結果、弘前大学の資源や伝統として外部に意識されているのは、現在の学習教育目標で掲げていることと相違がなく(表3, 4)、学習教育目標については「E.国際性の育成」を除き社会から要望されていることが確認された(表5, 6)。そして、学習教育目標から「青森県」の文字を削除したのは2004年9月実施の卒業生上司へのアンケートに基づくものであり、シラバスレベルで見れば資源や伝統を反映していることがより明確であり、また、国際性については、社会情勢やJABEEの要件から欠かすことができないことから、学習教育目標の修正は行わないことが了承された。

(2) 教育システム改善委員会

1) 中間審査に向けた対応

まず、資料5の外部アンケートでは、教育システムについて概ね適切であることが確認された(表7)ことの説明があった。表7で「不適切」という回答はどういう意見かという質問には、例えば、農場実習という授業が「F.技術者の社会的責任」と関係するのはおかしいのでは、という意見であり、アンケートの添付資料としてシラバス等を添付せずに授業科目名の流れに基づき回答を求めたため、作物栽培を通じて技術が自然に及ぼす影響や継続的な努力の必要を学ぶことを通じてFの目標とつながるという意図が伝わらなかったためと考えている旨回答があった。学習教育目標でEを掲げているのに表4で卒業生には国際性がないとの評価になっているがという質問には、このアンケートは従来の卒業生のイメージであり、プログラム修了生は今春でまだ2回しか送り出していないので、今後、修了生に対する外部からの評価を検証していきたい旨回答があった。

また、基準3.2(3)に関連して、資料11のように、教育効果について学生にアンケートした結果、一定の効果は発現しているものの、学びの記録について記入時以外は教

員が保管していて学生の活用が困難であるため、次年度以降は複製を作成しより一層の効果の発現を期すことの説明があった。

基準3.3(4)については、資料12に示すようにプログラム教員以外の連携を持つこととなったが、農場実習等の専門科目の担当教員とは昨年8月に会合を持ち、21世紀教育については資料13のような申し入れを行ったことの説明があった。

最後に基準3.1(3)と基準5(2)に関連して、前回でも説明したように編入学生の当プログラムへの受入を中止することとしたが、現在農業土木プログラムに在籍する在校生については、申し合わせをしっかりと適用し、4月～7月までの間通常の授業の合間に再評価科目について未履修内容の補講などをしっかりと行い、学生、教員ともに大変労力を費やしたことの説明があった。

そして、中間審査に向け、以上のような改善を進めていることが了承された。

## 2) 学生の学習達成状況

今春のプログラム修了生については資料6のような状況で、資料7の申し合わせに基づき、全員プログラムを修了したことを確認し、卒業証書とは別に修了証書を渡したことの説明があった。

また、資料8は3年生の成績状況で、全教員で学生の成績状況を把握しながら指導しており、順調に修了要件達成に向け、成績が向上してきている旨、説明があった。

JABEEがなければどうなのか、全体に成績が良い、との意見に対し、JABEE対応以前から学生教育に力は入れていたものの、システム化されより効果が出ていると考えている、2年までは基礎科目が多く評価が厳しい傾向があるものの、学生自身は達成目標を持ち勉学に励んでいる旨回答があった。また、保護者の状況については、10月末に保護者懇談会が開催され全体説明と個別面談が行われていること、個別面談でJABEEのシステムを説明すると保護者が教育への不安を一掃した事例があったこと、就職状況への関心が高いことの回答があった。そして就職状況については、今年度は国家I種2次試験に4人合格し、3人が地方上級に就職するなど良好で、農業土木系の就職も多い旨回答があった。以上の質疑を経て、学生の学習状況について了承された。

さらに、資格取得は今後の人生において重要であるが地域環境プログラムから農業土木プログラムへの変更が可能かどうか質問があった。これに対し、システムとしては不可能であり、1,2年次に取得できる資格も含め十分ガイダンスしていること、履修科目の自由度や就職先を土木系以外に求める学生が地域環境プログラムを選ぶ傾向があり、中途でのプログラム変更希望は考えにくいことの回答があり、別の委員から資格は卒業後にも取得可能であるとの助言を得た。

## 3) 授業評価の状況

現時点では、教員の自己評価が終わっていないので、教育褒賞については次年度に行うが、参考として、資料9, 資料10の学生授業アンケート結果が示された。一部の科目で5点の回答数が少ないようだとの意見に対し、学生アンケートと課題提出等との日程や、授業水準の維持等もあり、一概に学生の評価を鵜呑みにすべきではないものの、これを参考に各教員で自己評価し、授業改善につなげている旨、回答があった。

## その他

今年度で現在の委員任期を終えることとなるが、全員留任いただき、引き続きもう2ヶ年お願いしたい旨、依頼があり、出席の委員については、了解が得られた。

また、次年度の外部委員会については、自己点検書を提出する前の7月頃と、中間審査が終わった後の12月か1月あたりを予定している旨、連絡があった。